

平素は障がい福祉行政にご理解をいただきまして、誠にありがとうございます。

令和3年度より、障がい福祉サービスの報酬改定が行われたことに伴い、児童発達支援・医療型児童発達支援・放課後等デイサービスについて、ケアニーズの高い障がい児に支援を行ったときに個別サポート加算が算定されます。

支給決定期間に合わせて、ご本人の現在の状態像の勘案が必要ですので、「利用児童本人のご様子について」に当てはまるものに○をご記入いただき、申請書等とともに提出ください。

記入については「判断基準(例)」を参照してください。記入について不明な点や質問したい項目がある場合は、申請時に職員に相談しながらの記入でも可能です。

なお、未記入の項目や不明な点がある場合は、障がい福祉課よりお尋ねしたり、計画相談担当者等にご本人の様子を聴取する場合がありますのでご了承ください。加算の対象になるかどうかの判断は、支援に関わる方等からの情報と合わせて、総合的に判断いたします。

ご協力よろしくお願ひいたします。

個別サポート加算調査項目 利用児童本人のご様子について
 「できる時」と「できない時」がある場合は、「できない時」に基づき判断してください。

就学児用

児童名 _____ 記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

項目	当てはまるものに○	判断基準(例)
① 食事	全介助	<ul style="list-style-type: none"> 一部の行為も自分では全て行えないため全面的に支援をしている。・目的や内容を理解していない。 経管栄養等を全面的に支援を受けている。
	一部介助	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物に特別な配慮がある。(きざみ食、ミキサー食、軟食、宗教食、経管栄養(胃ろう・経口)、中心静脈栄養、過度な食物アレルギー、特別なカロリー制限など) 一度に口に詰め込まないようななどの安全面での配慮や、都度、嚥下や咀嚼の指導が必要。 自分で行うが全ては行えないため、部分的に口に入れてあげる介助をしている。 食べるのに何でも手づかみ、または道具が特製のものを使用、また道具を使って食べることにサポートがある。食品の温度や食感、食器へのこだわりなどにより配慮がある。 水が飲めない、食べられるものが極端に少ないなどの著しい偏食がある。
	介助は不要	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの介助がなくても全て自分でできる。
② 排泄	全介助	<ul style="list-style-type: none"> 一部の行為も自分では全く行えないため全面的に支援をしている。 本人が行っても全面的にやり直している、排泄の失敗が多く、その都度対応が必要、便こねの行為がある、排尿する場所ではない所で行為を行う。 目的や内容を理解していない。尿意等を伝えられない。 支援者等が間欠導尿、浣腸・摘便を行っている。 集尿袋やストマ・おむつ等を使用したり、尿カテーテルを留置して全面的に支援を受けている。
	一部介助	<ul style="list-style-type: none"> 一部の行為を自分でできないため、部分的に介助を受けている。拭き取り行為が不十分のため、支援者等が部分的にやり直している。 決まった場所でしか排泄したらない。トイレの形状によっては排泄が困難。 すべての行為を行えるが、見守りや声掛け等の支援が必要(大人の促しがなければ、自発的にトイレに行くことが難しい。尿意・便意はないが、時間を決めるなどしてすべての行為を自分で行っている、など)
	介助は不要	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの介助がなくても全て自分でできる。
③ 入浴	全介助	<ul style="list-style-type: none"> 一部の行為も自分では全く行えないため、常時全面的に支援をしている。 本人が行っても全面的にやり直している。 目的や内容を理解していない。 シャワーや浴槽を怖がるなど入浴への恐怖感がある。洗髪、洗身、洗面に強い拒否を示し泣くため対応が必要。 医療上の必要により入浴を禁止されており清拭のみ行っている。シャワーベッド等の器具を使用して入浴している。
	一部介助	<ul style="list-style-type: none"> 身体や髪を洗い拭く等の行為で、自分でやるところと、介助者が手伝ったり、介助者が一部やりなおすところがある。 すべての行為を行えるが、準備や入浴に時間がかかったり、入浴する際に常に動いているなどで、一人では入浴させられず、見守りや声掛け等の支援が必要。 感覚過敏や洗身等への拒否、石鹸やシャンプー、タオルなどにこだわりがあり配慮が必要。
	介助は不要	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの介助がなくても全て自分でできる。
④ 移動	全介助	<ul style="list-style-type: none"> 身体に触れる支援が全面的に必要(身体に触れる支援を行ったうえで移動をする、転倒防止等のため移動中は常に腕を組んだり手を繋ぐ等の常時の付添いをする)。 常時バギーや車いす、お散歩カートなどの移動用具が必要。 抱っこして移動するが首の座りや体幹が弱く抱っこに配慮が必要、装具などを装着しているため移動する際に配慮が必要。 医療上の必要により自力での移動を禁止されている。 道路への飛び出しがあり、信号を理解できない、障害物の回避ができないなどの理由で見守りが必要。
	一部介助	<ul style="list-style-type: none"> 自分で移動はできるが、部分的に支援(見守り、声掛けを含む)が必要。 階段や未舗装道路(砂利道など)の条件によって介助が必要。 感覚過敏などがあり靴や靴下に配慮がある、道順や手段にこだわりがある。 歩行速度が他児と異なるため、個別の対応が必要。 公共交通機関ではパニックになり利用できない。 移動が安定せず途中で立ち止まったり座り込んだり寝転んだりするため対応が必要。
	介助は不要	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの介助がなくても全て自分でできる。

項目	当てはまるものに○	判断基準(例)
コミュニケーション	常に支援が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールなどを用いても意思の伝達が出来ない。意思の伝達ができているかどうかの判断ができない。 ・会話のやり取りがなく一方的に話しかけたりTVの台詞などを独り言のように話す但自分の意思の伝達ではない。 ・オウム返して返答するが理解できていない。 ・他者の手を引いたり物の前に行くなど行動のみで意思を伝える。 ・日常生活上パターン化された内容のみ自分の意思を伝える。
	支援が必要な場合がある	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツール(絵カード・IST・PECS等)を利用すればコミュニケーションができる、手話・点字等を用いる。 ・外国語でのコミュニケーションのため翻訳アプリや配慮が必要。 ・特定の人(保護者など)としかコミュニケーションがとれない、慣れない場所や人前では表情が硬く話すことが難しい、吃音がある、など。
	支援不要	
説明の理解	常に支援が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明をしてもうなづきや返事ができない、理解できているか判断できない。 ・日常生活の中でパターン化された特定の行為(座る、食べるなど)のみ理解できる。
	支援が必要な場合がある	<ul style="list-style-type: none"> ・説明にうなづいたり返事をしてもその後の行動が伴わない。 ・同時に2つ以上のことを支持されると行動が困難。 ・コミュニケーションツール(絵カード・IST・PECS等)を利用すれば自分の意思を伝達できる、ジェスチャーで補足すると理解が促進される。
	支援不要	
大声・奇声を 出す	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲が驚いたり他者が迷惑になるような声をだす、物などを使って周囲に不快な音を立てる。 ・時間帯と場所を選ばず大声や奇声を出す。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	
	支援不要	
異食行動	常に支援が必要 (物があると口に含み、飲み込んでしまう)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品ではないものや腐った食べ物などの食べられないものを口に入れる、飲み込む。 ・口で感触遊びをする、口で確かめる。 ・異食しそうなものを置かないなどの配慮がいるなど。
	支援が必要な場合がある (飲み込みはしないが口に含むことがある)	
	支援不要	
多動・ 行動停止	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	<ul style="list-style-type: none"> 【多動】・周囲と協調できず絶えず動いたり喋っている。ゆっくりした行動が難しい。 ・バランス感覚がアンバランスのため転倒や怪我をしやすい、など。 【行動停止】・本人の意思とは関係なく次の行動に移ることが難しい。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	
	支援不要	
不安定な 行動	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・予定や手続き、日頃から慣れている支援者や状況が変わることを受け入れられず、パニック、突然泣き出す、次の行動ができなくなる、不安になり落ち着きなくなる、行動が停止するなど。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	
	支援不要	
自づける 行為	常に支援が必要 (常時見守りや個別対応などの配慮が必要)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体を叩いたりつねったり床や壁に打ち付ける、傷口を触ったりして治らない。 ・自分で口に指などを入れて嘔吐する。 ・衣類を破る。
	支援が必要な場合がある (該当行為がある)	
	支援不要	
他づける 行為	常に支援が必要 (常時見守りや個別対応などの配慮が必要)	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を叩く、髪を引っ張る、蹴る、押す、物を壊したり投げる。 ・相手に暴言、侮辱、からかい、いじめる行為。 ・他人への過剰な注意や干渉でトラブルを起こすなど。
	支援が必要な場合がある (該当行為がある)	
	支援不要	
不適切な 行為	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心が優先したり適切な意思表示や判断能力が不十分などで不適切な行為をする。 ・見知らぬ人に対し過度に親しげ(抱きつくなど)にする、他人に急に接近したりのぞき込んだり過度に人や物の匂いを嗅ぐ。 ・SNSなどで不適切な内容を発信したり見知らぬ誰かと通信する。 ・不適切な場所で放尿・排便する、自慰行為がある。 ・意思が伝えられないために人を叩いたり物を投げるなどの行為で表現する、感情のコントロールに困難がありささいな出来事で癇癪を起したり周囲の人とトラブルになる。 ・断りもなく人の物をもってきてしまう、盗む、嘘をつく。 ・意図的に保護者や職員などに従わず反抗するまたは過度な要求をするなど。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	
	支援不要	

項目	当てはまるものに○	判断基準(例)
突発的な行為	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	・手にしたものを突発的に投げる。 ・気になるものや事柄があると大人から勝手に離れてしまい迷子や行方不明になる(常に見守りや防止するための環境設定が必要)、気になることがある場合に手を繋いでいても振り切り気になる方へ行ってしまう。 ・危険の認識が弱く道路などへの飛び出し・身体能力を超えたの高さからの飛び降りる、熱いものなど危険なものに手を出してしまうなど。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	
	支援不要	
過食や拒食・反すう等	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	【食に関する行動上の注意】・異常な量を食べる、際限なく水を飲む。 ・環境の変化によって食べられなくなる ・極端な偏食(白米だけ、特定の物だけなど)があり食事面で配慮をしている。 ・反すう等(口に入れたものを飲み込まず貯める、嘔吐を繰り返す)。 【食に関する特別な配慮】・アレルギーや宗教食対応が必要。 ・咀嚼や嚥下の課題があり配慮(例:きざみ、ミキサー食など)が必要。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	
	支援不要	
てんかん	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	・診断がある、薬で発作を予防している、発熱時に抗けいれん座薬などで対応している、てんかん薬の服薬状況の確認を常にしている。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	・服薬対応はしていないが経過観察を行っている。
	支援不要	・過去にてんかん歴なし。
そうつ状態	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	※「そうつ」「うつ」どちらかだけの行動に該当でも差支えない。 【うつに関連する行動】・前後の脈絡なく急に笑ったり泣いたりする。 ・日常の活動への興味や意欲を感じない。 ・睡眠に課題(睡眠障害の診断や治療、入眠できない、睡眠のリズムが崩れやすい、まとまった睡眠がとれない、昼夜逆転など)がある。 ・自殺企図がある、気分安定剤などの薬を服薬している、など。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	【そうつに関連する行動】・気分の高揚、社交性の増大、多動・多弁、過度な興奮状態、怒りやすいなど。
	支援不要	
反復的行動	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	・物や行為にこだわり特定の行為を反復したり、儀式的な行為にとらわれるなどにより、動作に時間がかかり日常生活に支障をきたす。 例)・言葉やTVの同じフレーズを繰り返す、機械類やぐるぐる回るものやキラキラするものに集中しずっと見る、特定の玩具でしか遊ばない。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	・気になると時や場所を選ばず寄って行ってしまう。 ・日常生活の中で決まったルーティンを行わないと次の行動にうつれない。 ・スケジュールや物の置く位置などが変わると混乱し元に戻すよう求める、戸の開閉を過度に気にしてきちんと閉まっていないとパニックを起こす、決まった道以外を通るとパニックになる。 ・回るものや紐などを持ち常に動かしている。 ・上半身を前後に揺らしたりジャンプを繰り返すなどがあり時と場所に応じて配慮が必要など。
	支援不要	
対人面の不安 緊張、集団への不 適感、感覚過敏	常に支援が必要 (通常化または習慣化している、週に1回以上)	・一定期間、学校・事業所などへ行けなかったり入れなかったり家に引きこもっている。新しい場所など慣れない場所に行くとき動けなくなり会話ができない。 ・不安緊張が高まるとその場にいらなくなる、または動けなくなる。 ・全くもしくは短時間しか集団に参加できず個別に対応が必要。 ・アイコンタクトが乏しく配慮が必要。 ・ファンタジーの世界に入ってしまう、やり取りが成立しない。
	支援が必要な場合がある (時々あるいは部分的に支援、月1回以上)	・緘黙がある。 ・チック・爪かみ・指しゃぶりなど。 ・感覚過敏のため日常生活への適応に困難があるため配慮が必要(温度、食感、音、つま先立ちで歩く、光や色、皮膚感覚が過敏など)がある。
	支援不要	
読み書き	常に支援が必要	・文字では理解できずコミュニケーションツールを使用することで理解できる。 ・絵本や本に興味を示さない。 ・学習障害の診断がある。 ・外国語でのコミュニケーションが必要なため翻訳を行っている。
	支援が必要な場合がある	・一部は理解できるが見守りや口頭での補足の説明が必要。 ・書くことはできないがパソコン等の代用手段を使用すればできる。
	支援不要	

ご記入ありがとうございました